

発注者綱紀保持委員会（第3回定例会議）

開催日及び場所	平成19年3月16日（金）東北地方整備局大会議室																																				
出席者	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">委員長</td> <td style="width: 15%;">坪香 伸</td> <td style="width: 15%;">局長</td> </tr> <tr> <td>副委員長</td> <td>土屋 光博</td> <td>副局長</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>小野寺 信一</td> <td>弁護士</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>内田 貴和</td> <td>公認会計士・税理士</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>遠藤 孝夫</td> <td>東北学院大学教授</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>音瀬 均</td> <td>総務部長</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>山田 篤司</td> <td>企画部長</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>森 義一</td> <td>建政部長</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>南 哲行</td> <td>河川部長</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>寺本 邦一</td> <td>道路部長</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>遠藤 淳一</td> <td>営繕部長</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>岡田 憲幸</td> <td>用地部長</td> </tr> </table>	委員長	坪香 伸	局長	副委員長	土屋 光博	副局長	委員	小野寺 信一	弁護士	委員	内田 貴和	公認会計士・税理士	委員	遠藤 孝夫	東北学院大学教授	委員	音瀬 均	総務部長	委員	山田 篤司	企画部長	委員	森 義一	建政部長	委員	南 哲行	河川部長	委員	寺本 邦一	道路部長	委員	遠藤 淳一	営繕部長	委員	岡田 憲幸	用地部長
委員長	坪香 伸	局長																																			
副委員長	土屋 光博	副局長																																			
委員	小野寺 信一	弁護士																																			
委員	内田 貴和	公認会計士・税理士																																			
委員	遠藤 孝夫	東北学院大学教授																																			
委員	音瀬 均	総務部長																																			
委員	山田 篤司	企画部長																																			
委員	森 義一	建政部長																																			
委員	南 哲行	河川部長																																			
委員	寺本 邦一	道路部長																																			
委員	遠藤 淳一	営繕部長																																			
委員	岡田 憲幸	用地部長																																			

定例会議議事概要

意見・質問等	回答
■発注者綱紀保持に係る最近の動向について	
<p>○今回の当面の対策については、いずれ調査結果に基づいて、本格的な再発防止策が出るという理解でよいか。</p> <p>対策の中身は原因の分析を抜きには語れない。原因の分析と対策は裏表であり、両者の間に食い違いやズレがあったのでは、対策に効果が無い。</p> <p>当面の対策として4点ほどあるが、再就職の見直しが4番目にあるのがとても気になる。</p> <p>この度の国土交通省の不祥事についての各マスコミの意見をみると、例えば3月10日朝日新聞の社説では、まず考えられるのは天下りとの関連であると、同日の毎日新聞の社説でも、自らの天下りお土産と見なす役人を放置してきた、という指摘があって、背後には天下りがあるのではないかと書いてある。</p> <p>本格的な調査によって、原因は天下りなどの構造的なものであるという結果が出た場合には、対策の重要性に変化は見られるのか。優劣が変わることがあり得るのか。</p>	<p>○今回の再発防止対策については、調査が済んでいないが改善措置要求があった段階で、緊急に取りまとめられたものと聞いている。</p> <p>従って、本格的な対策は原因等も検討の上でのことだと聞いている。</p> <p>各対策の順序については、それが軽重の差であるかは確認していないが、今回各委員からお聞きした意見等については、きちんと本省へ説明する。</p> <p>再就職問題については、新聞紙上でご案内のとおりであるが、政府におきまして組織的な斡旋の是非について法案提出に向けての準備が進められているところであり、当然再就職の問題も含めた法案が作られると理解しており、公務員の再就職について大きな改革がなされるのではないかと考えている。</p>

意見・質問等	回答
<p>■発注者綱紀保持に係る研修、講習の実施方針について</p>	
<p>○今回の談合についての本省の調査結果は、研修には入らないのか。 何が自分たちの足元で起きたのかを学習することが一番であり、その原因はどこにあったのか、それを改めるためには何が有効なのかをテーマに入れているのか。</p> <p>○東北地方整備局が、他に先駆けて研修をやっていることについては評価したい。 何回もやることも大事だが中身が問われる。例えば、具体的に正しい方向に導くような事例をたくさん出していけば分かり易くなると思われる。 最初は精神論、具体的な事例、そして職員一人一人がこういう局面でどうするのかを常日頃職場で話し合うことが大事だと思うので、研修方法を前向きにご検討願いたい。</p> <p>○延べ約740名が受講予定、受講率が24%とあるが、4人に1人では少ないように感ずる。また、延べ人数なので全く受けない職員がいるのではないかと心配になる。</p>	<p>○調査結果を踏まえた再発防止対策については、その内容の全てを研修の中に反映させたいと思っている。 本格的な対策が出た段階で、それを踏まえて研修の中に取り入れて行く考えである。</p> <p>○ご指摘のように、原因の分析、あるいは具体的なケースに沿った対応についても研修していきたい。 コンプライアンス・マニュアルの中で、最近の問題事例を洗い出し、そのチェックポイントとして教訓とすべき注意点を明確にしていきたい。</p> <p>○来年度は約740名の受講予定で、今年度実施した人数は314名であり、ほぼ倍増している。 研修所施設のキャパシティもあり、受講者をそれ程伸ばせない中での最大限の人数となっている。 ただし、残りはeラーニングで対応する予定とあるが、それだけで十分かということもあるので、講習会や意見交換会など機会を工夫して趣旨を徹底していきたいと考えている。</p> <p>○原因を分析し、それをもとに研修などに十分反映させるべきだという委員のご意見はもっともだと考えている。 公正取引委員会からの改善措置要求を受けて大臣から訓辞があり、問題意識として、こんな割の合わないことをなぜするのか、ということだと思う。公務員として長年勤務しても手を染めたとたん人生を誤ることになると。そのことを一部の職員のことではなく全職員が共有しろと言われた。各事務所長ないし各所属長を通じて、全職員に</p>

意見・質問等	回答
<p>○十数年前、宮城県の官官接待とカラ出張問題があったが、裁判で被告である職員の答弁は「県庁では、昔から予算は全部使いきる。裏金にする習慣があった。その習慣に対して私達は個人としては抵抗できない。だから私達に個人責任はない。」というもの。</p> <p>悪しき慣習に対して私が考えた結論は安心感である。発覚することはない。発覚しても自分一人がやっている訳ではないから、自分一人がクビになることはないという安心感だと思う。</p> <p>重ねてお願いしたいのは、すぐに対策を立てないこと。宮城県の場合をみても問題が起きるとすぐ一週間後に対策が出てきたが、それは患部を剔抉しないでバンソウコを何枚も貼っていることと同じだ。時間をかけて、なぜそのようなことが起きたのかその原因を意識の面まで遡って分析をし、それをみんなが原因について意識を共有することで、かなりの程度再発防止につながると思う。過失犯ではなく、ほとんどが確信犯であり、確信犯を生み出す構造が組織の内部に長年にわたってある訳だから、その原因についての認識を共通にすることが、一番再発防止に効果があると思う。</p> <p>研修をする場合も何が原因だったのかをみんなが知ることで70%位コンプライアンスに繋がると思う。逆に言えば、それを抜きにいくら研修を行っても、新しい対策を次から次に立てても再発防止には繋がらないと思う。</p>	<p>その旨を伝えており、研修はもちろん、いろんな機会を通じてやっていかないといけないと考えている。国土交通省職員6万3千人、全職員の意識を集約してやるべきであり、今後分析が行われて、より詳しく背景等が明らかになれば、研修などを通じて啓発に努めていきたい。</p>

意見・質問等	回答
<p>■発注者綱紀保持コンプライアンス・マニュアルの改訂について</p>	
<p>○入札手続き上の錯誤事案は、マニュアルのどこに関連してくるのか。私は、入札手続き上の錯誤については、本質的にはコンプライアンスの問題ではないと思っている。入札のシステムの問題とコンプライアンスの問題を一緒に議論すべきなのか、それとも切り離して別の問題として考えるべきなのか。</p> <p>むしろ入札手続き上の錯誤事案とは、公正な入札をどう実行するという本来業務の問題であって、コンプライアンスの中に持ち込んで議論することは、果たしてどうなのかという疑問がある。</p> <p>○規程の趣旨については分かったが、意見として述べさせていただく。</p> <p>コンプライアンスの問題と入札手続き上の問題を分けて議論すべきだと思う。</p> <p>今のような行き違いや失敗は、あつてはならないことだが、前の制度が徹底する前に次の制度が出てきて、なかなか徹底しないでギクシャクする。そうした試行錯誤を積み上げていく問題と、談合に手を貸すか貸さないかという問題は、異質だと思う。</p> <p>○別の視点で考えていただきたいことがある。例えば、新聞などで原子力発電所のこと問題になっているが、人間がやることなので、どうしてもいろいろなミスがある。</p> <p>ミスが起こった場合、起こったことを報告をしてから処置をしたか。もし故意に隠せばまずいこととなる。</p> <p>今、錯誤の事例ということで出していた6つの事例について、きちんとやったから問題が無い訳で、黙っていたらどうなったか。故意に何か悪いことをやったかのように捉えかねない。国民からお預かりしている税金の公正で透明な使い方が適正であったかについて答えられなくなるのではないか。</p> <p>こういった事例を出して、こう処置しましたと説明していただいて私はほっとして</p>	<p>錯誤事案は、発注者綱紀保持規程に違反する事例として取り上げた訳ではない。</p> <p>発注者綱紀保持規程の中に発注担当者の責務を述べているところがあり、第3条「担当職員の責務」の第2項で、発注事務に係る関係法令を遵守するとともに適正に事務処理を行わなければならないとなっており、事務処理の適正さを確保することが一般的な責務として職員に課されている。</p>

意見・質問等	回答
<p>いる。間違いに対してきちんと措置して、国民のお金を適正に使うことを積み重ねることも国土交通省にとって大事だと思う。</p> <p>最初から意図があって談合するのとは大分違うが、職場で改善しようと議論することがコンプライアンス・マニュアルを作った趣旨だとすれば、私は今後もやって欲しい。ミスが無いのが望ましいが、黙って隠蔽するよりは訂正してやっていただきたい。</p> <p>○私も錯誤事例については非常に違和感を感じている。</p> <p>事例のようなミスはどうしても人がやることなので、件数が多くなると起こってしまう。個人的にはミスは無くならないと思っている。マニュアルなどを使って極力無くす努力は必要である。</p> <p>ゴキブリを1匹見たらあと30匹いると思えと同じで、新聞記事が出ればこれは1件だけではなくて何件も起きているのだらうなと想像する。</p> <p>アカウントビリティ、説明責任についてであるが、起きたことは仕方がないので、ミスに対してどう誠意をもって対応するのが大きいと思う。</p>	

意見・質問等	回答
<p>■その他</p>	
<p>○水門談合の問題であるが、鋼橋上部工の談合以前に行われていた訳だが、国民はやっているのは一人二人ではなく、こういう土壌があるのだろうと思っている。</p> <p>実際は分からないが、積極的な意志はともかくとしても、知っていても黙っていたなど消極的に関与した方も少なからずいたと思っている。</p> <p>この疑惑を今から晴らすためには、相当な決意や覚悟があつてコンプライアンス・マニュアルあるいは研修などをやらなければならない。</p> <p>先程話があつたが、大臣の決意を皆が共有しないと根絶できるものではないと国民は思っている。</p> <p>この委員会は、形式的なもので終わるのではなくて、ずっと後から評価されるべきものであり、県庁でも官官接待や裏金問題などがあつたが、無くすためには長い時間を努力して、その成果を国民の皆様の開示しないと納得・信用していただけない。</p> <p>非常に長期戦になるが、粘り強くそういった体制をつくるのが国民の信頼を勝ち得る一番の方法だと思っている。是非とも局長をトップに東北地方整備局が一丸となつてやっていただきたいと思っている。</p> <p>○この委員会は3回目になるが、我々外部3人からしか意見が出ないがこういうものなのか。全く他の人から意見が出たことがない。</p>	<p>○定例会は4名の外部委員を入れて行われるが、それ以外に随時開くことができる仕組みになっており、1週間前に部長レベルで原案に対して意見を募る機会を設けている。</p> <p>委員の発言の趣旨について、我々もきちんと受け止めて改善しなければいけないと思っている。</p> <p>○例えば、入札監視委員会というのは、外部の委員の皆様の中で仕切つていただいて我々は答える立場にしかない。そのように議事を進める仕組みもあると思う。</p> <p>議事の進め方なりやり方について、我々も考えるが委員の方からのご意見があればお願いしたい。</p>

意見・質問等	回答
<p>〇ここにきて水門談合事件が降って湧いた。これはある意味では、千載一遇のチャンスだろうとみている。</p> <p>私の希望としては、国土交通省で調査した結果を我々委員に配布していただいて、原因分析と対策との繋がりの部分をここで徹底的に議論していただきたい。そのよう仕組みを作ってもらえるならば、この委員会が将来に生きることになる。</p> <p>せっかくこのような委員会をやるのであれば、参加者の皆様の個人的な意見も出していただく。そして本当に適切な再発防止策をこの委員会として生み出して、本省へお届けする。各地で行われれば、非常に良いものができるし、他の省庁の参考にも必ずなると思う。報告書ができた段階で議論の機会をつくってもらえるならば、我々も本腰を入れて意見を取りまとめたいと思っている。</p>	